

「マウンテンバイクをサポートする」技術講習会のお知らせ

アメリカで生まれたマウンテンバイクは、人と自然が密着したアウトドアスポーツ用自転車として急速に世界に広まり、我が国でも年々愛好者が急速に増大しています。また、マウンテンバイクの種類も多様化し使用目的に応じた各種のモデルが作られています。このような状況の中で、マウンテンバイクがさらにハード、ソフト両面より高付加価値とともに定着していくためには、より安全で丈夫なことが求められていくでしょう。

シルクロードをマウンテンバイクで走破した時の様子と求められる条件、またマウンテンバイクを強度測定した結果からの示唆など今後のマウンテンバイク作りに大変参考となる内容の報告、ならびに特別講演としてマウンテンバイクを含めた自転車の常用は健康にすばらしい効果が得られることなどを交えた講習会を企画いたしました。多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

●開催日時および会場

平成6年11月8日(火) 東京会場 日本自転車会館3号館 1階イベントホール (13:00～15:30)

平成6年11月14日(月) 大阪会場 インテックス大阪 6号館2階F会議室 (13:00～15:30)

当日はインテックス大阪 6号館1階(A Bゾーン)で

'94大阪国際自転車展が開催されています。

●題目および講師

「ツール・ド・シルクロード20年計画とMTB」 (13:00～13:50)

東京・大阪両会場 地球と話す会 事務局長 長澤法隆氏

この計画は、多くのメンバーが毎年の計画に参加し、20年後にシルクロードの1万5千キロをグループとして走破することを目指している。地球の凹凸や風といった自然をダイレクトに体感できる上に、徒歩よりは速いので自転車を選んだ。また、マウンテンバイクを選んだのは悪路に強い、標高の高い所でもタイヤの空気圧を気にしなくて済む、パンクが少ない、輸送中の損傷が少ない、といった理由による。とりわけ再来年以降のコースは標高3700メートルの峠越え、河原を70キロも走行するので、シルクロードとマウンテンバイクの魅力を十二分に社会に伝えられると確信している。

「マウンテンバイクの強度考察」 (13:50～14:30)

東京・大阪両会場 財団法人 自転車産業振興協会 技術研究所 品質構造研究部 主任研究員 河治宏泰

マウンテンバイク3台の山道下り上り、階段下りの実走試験を実施した。同じマウンテンバイクでの前ホークをオイル式、ゴムブッシュ式、金属ばね式のサスペンションホークに取り換えて同じ走路で試験を行った。

サスペンションホークを装着したことによる応力の変化、フィーリングの相違などによってサスペンションホークの効果を考察した。また、マウンテンバイクの疲れ強度を調べるために油圧加振機4台による試験装置を組み立てた。これらの試験について報告する。

《特別講演》「運動生理学から見た自転車とヘルスサイエンス」 (14:40～15:30)

東京会場 順天堂大学スポーツ健康科学部 教授 青木純一郎氏 大阪会場 早稲田大学人間科学部 教授 村岡功氏

これからの健康づくりは、単なる長命ではなく質の高い人生を楽しむためのものでなければならない。自転車は歩く、走る、泳ぐ、筋力トレーニング、エアロビクスと並んで現代人の健康の基盤となる体力要素の全てを効果的、かつその運動形態や乗車姿勢等の特性から安全に向上させる運動である。しかも幼児から高齢者まで三輪車からマウンテンバイクまでの多様な自転車が選べて楽しめる点からも他の運動の追従を許さないものがある。

※〔特別講演テーマは同じですが会場により講師は変わります。〕

●受講料 無料

●申込方法 会場整理の都合上、あらかじめハガキ大の用紙に(「マウンテンバイクをサポートする」技術講習会)と題記し、(1)受講者氏名、年齢、住所、(2)勤務先の名称・所属課名 所在地 電話番号を記入し、申込先までお申し込み下さい。なお、定員に余裕があれば当日会場でも申込受付に応じますので、電話などでお確かめ下さい。

●申込先 (財)自転車産業振興協会 技術研究所 電話(0568)67-0437 FAX(0568)68-1347

技研ニュース No.142
(1994年10月31日発行)

KEIRIN



この技研ニュースは
競輪の補助金を受け
て作成しました。

発行所・財団法人 自転車産業振興協会 技術研究所

〒484 愛知県大山市宇新川1番の6 電話(0568)67-0437
FAX(0568)68-1347

大阪支所 〒590 大阪府堺市戎之町西1丁3の3 電話(0722)38-8521
自振協本部事務局 〒107 東京都港区赤坂1の9の3 電話(03)3572-6409